

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
	<p>今年9月を目処に計画を決定するということだが、10年間の計画をこの時点で固めるのか？矢留小に関しては5年後の令和9年度に計画見直しの検討を行うべきである。8年後の推計に基づく計画よりも3年後の推計に基づく計画の方が、子どもの数について確実性が高い上に、義務教育学校のような新制度が発足する可能性もある。</p>	<p>学校を組み合わせる関係上、全体像を先に周知する必要があるという考えで、10年間の再編スケジュールをお示ししている。人口推移の予測は大変難しく、確かに現在の予想よりも少子化が進むことも考えられる。10年の間にこの計画が相応しくない、計画を実行しても効果が得られないような状況になった場合は更に大規模に組み合わせるなど、計画見直しも視野に入れて検討していく。</p>
1	<p>説明会資料の2ページと令和3年3月23日の答申の2ページを比べてみると、資料には平成24年度の小学校学級数は158とあるが、答申では149となっている。これに伴って、学校規模の推移でも、資料の2ページ下の表の平成24年度の小学校の学級規模は、上から1,7,7,3,1となっているのに対し、答申では1,9,7,1,1となっている。また、児童生徒数見込み数についても、資料では令和10年には2,562名とあり、答申では令和12年には2,935名と増えている。R10までに底を打って児童数が増えるということではないか？再度精査をお願いしたい。</p>	<p>即答は難しいが、推計と実績値のズレかと思われる。精査する。 (※学級規模の違いは、答申では実績値(当時、小学1年生は35人学級、小学2～6年生は40人学級)であるのに対し、現在、令和7年度にかけて小学校の学級編成を35人に変更中であることから、今回の資料では小学校を全て35人学級として試算したものである。また、児童生徒数の見込みについては、答申は平成30年度人口ビジョンにおける推計値であり、今回の資料は令和4年4月13日現在の住民基本台帳をもとに年齢別の実数を積み上げたものである。今回の資料のほうが実態に近い数字であり、人口ビジョンより児童生徒数の減少が進んでいる。)</p>
	<p>今回の資料2ページに中学校校区ごとの人数と学級数が記載されているが、全ての小学校校区ごとを記載すべきである。地域住民向け説明会の際には、統合後の小中学校の各学年の人数及び学級数、統合しなかった場合の既存の各学校・各学年の人数及び学級数の現状と今後の見込みをデータで示して欲しい。その際に教員不足問題にも触れていただきたい。</p>	<p>各学校の学年別の学級数については、基礎数値は持っている。全体向け説明会の際に、今日お示した全体の生徒数及び学級数に加え、各小学校の学年ごとの人数・学級数を提示したいと思う。</p>
	<p>答申の8ページには、「柳川市全体の事業計画の作成にあたっては、～略～早期の対策を必要とする学校を優先して検討すること」とある。柳南中校区は児童生徒数の減少率が著しいにも関わらず、今回示された優先順位となっているのはなぜか？</p>	<p>優先順位について、旧大和町地区の小学校から進める理由としては、現時点で既に複式学級の基準に合致している学校が1校あり、今後、複数の学校が複式学級に該当すると予想されているためである。柳南中校区に関しては、確かに減少率は大きいですが、人数としては複式学級まで至っていないため、このようなスケジュールを策定している。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
2	質問ではなく意見である。資料3ページの小規模化の影響の中で、良い点として挙げられている「児童生徒・教職員の一体感」や「きめ細やかな指導」等について、再編後も活かしていくような計画を策定して欲しい。	小規模校の良い点として一体感の醸成等が挙げられているが、これは反対にリスクになる可能性もある。小規模校では人の入れ替わりが少ないため、人間関係がうまくいかない場合でもそのまま継続するしかない。しかし、ある程度規模が大きくなれば、クラス替え等で解決できる可能性が出てくる。また、きめ細やかな指導については、例えば先生1人、生徒10人の場合は確かにきめ細やかな指導が可能かと思われる。再編により規模が適正化され、先生が3人、生徒が30人となった場合、人数の比率は同じだが、職員が増えることで、いろんな視点から、多様性を持って子どもたちへ対応できるようになる。そのような意味でのきめ細やかな指導に取り組んでいきたいと考えている。
3	中学校の統合について、現在、柳城中と柳南中の制服は違うが、これは学校が統合してから制服が変わるのか、それとも統合前の段階から変えていくのか？	基本的には、まず制服のあるなしから、再編協議会(仮称)で協議していく。中学校については、学校再編とは別に、教育委員会で標準服の設定を考えているところである。スケジュールにもよるが、既存制服の着用を認めるか、標準服を導入するか等、再編協議会(仮称)の中で検討していただくことになる。
4	資料1ページの令和3年答申の概要に、小学校の望ましい学級規模は25人程度とある。望ましいとかではなく必ず25人規模に整えていただきたい。生徒数が多ければ教職員の負担が大きい。新聞等でも先生になりたくない人間が増えていると言うし、最近是不登校の生徒も増えていると聞く。これらの問題を解決するために、1学級の人数を30人以下に抑えることが必要である。極端に言えばこの問題が解決できるなら1学級でも良いと思っている。	資料1ページは答申の内容で、あくまで望ましい数ということで検討委員会から提言をいただいたものである。現在、小学校については令和7年度までに35人学級の実現を目指している。また、学級人数が多くても、学校規模がある程度大きければ、習熟度別にクラスを分け、少人数授業が可能になる。このような取組みを行いながら、きめ細やかな指導に繋がっていきたくと考えている。また、教員志望者が減っている問題については、小規模校ではひとつの学年をひとりの先生で見なければならぬことへの不安や負担が原因となっている部分もあるかと思う。これについては、複数学級になり学校規模が大きくなれば、先生も学年に複数配置されることになる。ベテランと若手といった組み合わせが可能になり、先生がチームで対応できるようになれば、こうした問題の解消にも繋がるのではないかと考えている。
5	現在、それぞれの学校で行っている学校ごとの伝統行事(矢留小の場合は白秋祭など)はどうなるのか？決まっていない部分も多いと思うが、方向性だけでもお示しいただきたい。	地域への愛着を持つ子どもをいかに育てていくかは重要であり、「柳川市が大好きな子ども」を市内25校全ての目標として掲げている。統合後についても、それは変わらず取り組んでいきたい。ただ、現在それぞれの学校で行っている伝統行事を全てそのままの規模で持ち寄ることは、教育課程上無理が生じると思われる。ある程度縮小する可能性はあるが、それぞれの学校で大事にしてきた行事等をどのように教育内容に組み込むか、今後、各新設校において検討することになる。伝統を大事にする精神を育むことは引き続き大切にしていきたい。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
6	現藤吉小は生徒数が多いが、再編後の(仮称)三橋小は25人学級を作れるのか？	学級規模は35人が基本となる。そのため、学級の人数は35人以下を目指すことになる。
	35人と25人では、先生たちの目の行き届き方も変わってくる。25人程度が望ましいと書いてある以上、これに基づいて再編を行っていただきたい。矢留小の各学年の人数等を具体的に教えて欲しい。	(矢留小校長)全校で189名。1年生が30名、2年生が35名、3年生が25名、4年生が36名の2クラス、5年生が31名、6年生が31名という状況である。 (学校教育課長)校長先生の説明を少し補足。現時点で矢留小、両開小が統合すると、全校生徒が344名で12クラス。今の1歳児が小学校に入学する令和10年度になると、全校生徒210名で8クラスである。
7	通う学校も先生たちも変わるとなると、子どもたちの負担が大きい。ケアをどのように考えているか聞きたい。	再編により教職員集団の規模が大きくなることで、多様な子どもたちへの対応が可能になる。また、規模が一定以上になれば加配の先生が付く可能性が高くなるため、これまで以上に手厚い対応が可能になると思われる。また、子どもたちの関係性においても、人数が増えて新しい友達が出来ること、より良い人間関係の形成に繋がるのではないかと考えている。